

令和2年度山都町包括医療センターそよう病院決算の点検・評価について公表します。

本院は、令和元年度に発生した新型コロナウイルス感染症における感染防止対策に努め、病院玄関での検温、入院患者面会制限、他の医療機関の情報収集など感染対策委員会を中心に病院全体で取り組んでいるところです。(令和3年3月29日より新型コロナウイルス感染症受入病床1床確保)

地域における医療の確保と住民の健康増進、福祉の向上に大きな役割をもとめられるところですが、高齢化が進むなか、郡内唯一の救急告示病院、へき地医療拠点病院を維持し、専門的な診療科においては、熊本県、熊本大学病院や他の医療機関の協力により非常勤医師が確保出来ております。しかし、医療技術員の不足等、厳しい状況は続いています。また、「地域包括ケア病床」を在宅療養支援病院として、確立してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、稼働率も伸び悩んでいます。

病院事業収支については、診療報酬加算獲得など努めたものの、感染症拡大に伴う受診控え、受入制限、及び通院患者の受診間隔延伸等により、外来患者数は減少しましたが、1人当たりの単価は増加した。しかし、新型コロナウイルス感染症患者・疑い患者への対応業務等や非常勤医師確保に要する経費が増加しました。

今後とも、可能な限りの経費削減に努め、急性期からの回復期、更に退院後の在宅期、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問歯科診療まで切れ目のない医療の提供を行い、地域医療サービスの安定的供給、水準の向上、経営の安定に努め、多くの住民の期待に応えるべく、地域包括ケアシステムの一翼を担う病院としての役割を果たし、より一層の向上に努めます。

※業務状況

患者数につきましては、入院は14,628人(1日平均40.1人)・前年度14,479人(1日平均39.6人)、外来患者数 医科は38,307人(1日平均158.3人)・前年度39,346人(1日平均163.3人)、歯科は3,483人(1日平均13.2人)・前年度3,569人(1日平均13.6人)で前年度に比べて、入院患者で149人(1.0%)の増、外来患者で1,125人(2.6%)の減となりました。

※収益的収支

事業収益の医業収益は、当年度828,523千円(前年度829,500千円)で977千円(0.1%)の減となりました。その主な内訳は繰入金8,915千円(13.9%)の減でした。

医業外収益では、当年度197,394千円(前年度163,181千円)で34,213千円(20.9%)の増となりました。その主な内訳は補助金39,297千円(283.4%)の増、繰入金8,348千円(9.6%)の増でした。

特別利益は、過年度損益修正益23,919千円(前年度109千円)でした。

その結果、当年度事業収益は1,049,837千円(前年度992,791千円)で57,046千円(5.7%)の増となりました。

事業費用の医業費用は、当年度984,190千円(前年度978,212千円)で5,979千円(0.6%)増となりました。その主な内訳は、給与費637,644千円(前年度619,105千円)で18,539千円(2.9%)の増、経費154,962千円(前年度145,628千円)で9,334千円(6.4%)の増でした。

医業外費用では、63,257千円(前年度56,866千円)で6,391千円(11.2%)の増となりました。その主な内訳は、雑損失3,403千円(15.7%)の増、訪問看護ステーション2,989千円(14.2%)の増でした。

特別損失は、過年度損益修正損21,895千円(740.8%)の増となりました。

以上のように、当年度病院事業収益は、1,049,867千円に対し、当年度病院事業費用は1,069,342千円で当年度純損失19,505千円となりました。

※資本的収支

資本的収入は、44,609千円(前年度32,199千円)で12,410千円(38.5%)の増となりました。その内訳は、補助金12,163千円増、繰入金247千円の増でした。

資本的支出は、68,999千円(前年度58,037千円)で、10,962千円(18.8%)の増でした。その内訳は、企業債償還金538千円の増、医療機器購入費9,243千円の増、自動車購入費1,180千円の増でした。

1. 収支状況

	令和元年度			令和2年度			点 検		評 価
	目標値	実績	達成率	目標値	実績	達成率			
経常収支比率	99.3%	95.8%	96.5%	104.9%	97.9%	93.3%	(経常収益/経常費用) × 100 病院が安定した経営を行うための指標であり、総収益と総費用との割合で事業活動の能力を表す指標。	この比率は100%以上であることが望ましく、令和2年度の達成率は97.9%で目標を7.0%下回っている	事業収益は入院延患者数の増加、新型コロナウイルス感染症の診療報酬特例措置において前年度を大きく上回ったものの、令和2年度より地方自治体における臨時・非常勤職員の任用要件を厳格化した会計年度任用職員制度の施行に伴う給与費増の影響もあり、本年度赤字決算となった。人材確保等これからの運営が厳しくなることが予想される。人命を預かる医療機関として患者様の安心・安全な医療を講じていく。
医業収支比率	93.9%	84.7%	90.2%	94.5%	84.2%	89.1%	(医業収益/医業費用) × 100 医業費用が医業収益によって、どの程度賄われているかを示す指標であり、医業活動の能力を表す指標。	この指標は経常収支比率同様100%以上であることが望ましく、令和2年度は目標値を10.3%下回っている	
病床利用率	78.9%	69.4%	88.0%	80.7%	70.3%	87.1%	(年延入院患者数/年延病床数) × 100 病院の施設が有効に活用されているかどうかを判断する指標。	この指標は高い方が望ましく、令和2年度の達成率は70.3%で目標を10.4%(5.9床/日)下回っている	
職員給与費比率	67.7%	74.6%	110.2%	67.6%	77.0%	113.9%	(職員給与費/医業収益) × 100 病院において職員給与費は最も大きなウェイトを占める医業費用であり、医業収益と人件費の割合で職員数が適正かを判断する指標。	この指標は低い方が望ましく、令和2年度の達成率は9.4%上回り、前年度対比では2.4%アップした。	
職員数	67人	70人	3人	67人	70人	3人			